

SUN たなと。

一生懸命な人が
地域の力を
信じて



清掃後(7年11月)



清掃前(6年10月)

EGS(ええ感じグリーンさんだ)代表

前出 佳与さん
Kayo Maedeおの小野



▲ Instagram

「毎日見ている『ああ、きれいだな』と感動するんです」と笑顔を見せる前出佳与さん。地域活性化を目指して活動するグループ・EGSを立ち上げ、小野公園の池をきれいにする「モネの池再生プロジェクト」を行っている。

30年前、小野地区に移住した前出さんは、初めて見た小野公園の美しさに心を奪われた。足しげく通うようになったが、次第に仕事で三田を離れることが多くなり、訪れることはなくなっていた。

転機となったのは新型コロナウイルス感染症の流行だった。ガラス工芸作家として出品していた各地の作品展が中止に。三田で過ごす時間が増え、自分が暮らすまじのことを深く考えるようになったのだという。そんな中、数年ぶりに訪れた小野公園。そこで見たのは、水は濁り、水生植物が繁茂する変わり果てた池だった。あんなにきれいだったのに——前出さんの心に、喪失感とともに「あの美しい池に戻りたい」という想いが湧き上がった。

令和5年9月、EGSの活動をスタート。SNSや口コミで徐々に広まり、今では月2回の活動に毎回10人程が集まるように。年代は4歳から70歳代までと幅広い。大切にしているのは「皆が楽しむこと」。強制は一切せず、参加できる時に参加し、できること・やり

たいことを自ら選んで行うのだという。「ボランティアの心を大切にしたい」と語る前出さん。「見返りがなくても、時間と労力を惜しまない。そんな皆さんの純粋な心が、心地良い空間を創り出している。それを守るのが言い出しっぺの役割」と決意をにじませた。月2回の活動以外にもほぼ毎日、父と二人で作業をする。「人が集まったときのパワーってすごい！地道だけど、続けていけば絶対うまく行く」と実感できているから頑張れます」と希望に表情を輝かせた。

ガラス工芸作家として海外進出も目指していたが、「今は『ここ』で頑張るのも良いと思っっている」という。「作家の自分と、市民活動をしている自分。全く違う世界で人生を2倍楽しんです」と笑う。「課題に直面した時こそ笑顔で楽しむ」——その明るさが地域を照らす。

「モネの池」という響きに惹かれて参加。前出さんは、いつも皆が気持ち良く活動できるよう準備を欠かしません。皆がリーダーとして信頼する彼女と、今後一緒に頑張っていきたいと思っています。



■ モネの池再生プロジェクトに参加する西羅奈美江さん